

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域との交流を図り、その地域に存在するホーム造りを理念に掲げ、住み慣れた地域の中でその人らしく生活出来る様目指している		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に掲示し、職員の名札裏にも印刷されており、日々確認出来る状況にある		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議を通じ行っている		ホームでの行事等を通じ、更に地域住民の周知を図りたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	果物や不要になった家具や福祉用具を提供して頂いたり、入居者様との散歩や職員の出勤時など近隣の方には気軽に声を掛けて頂ける様な存在になってきている		気軽に行事に参加して頂けるような機会を増やしたい
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のボランティアさんに来て頂いたり、回覧板や町内会の方を通して情報収集を行い資源回収等に参加している		出来るだけ利用者様も行事に参加出来るよう情報を共有していきたい
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、地域に貢献できることはないか話し合っている。また、町内の独居老人宅に入居者様と共に訪問している		災害や緊急時等互いに協力出来るようなネットワークを作っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善すべき項目は会議で話し合い、改善へ向けて取り組んでいる		職員に意義や目的を理解してもらえるような体制を取っていきたい
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて、ホーム内の行事報告や取り組みを報告し、理解して頂けるよう努めている		介護全般や防災に関する知識など、地域の方の生活にも役立てられるような内容にも取り組んでいきたい
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市・区の管理者会議や在宅ケア連絡会に参加し、必要に応じて市の担当者に相談している		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	道などで作成しているパンフレットをいつでも見ることが出来る状況にあるが、学ぶ機会が少ない		年間の研修予定表等を作成し、定期的実施していきたい
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	マニュアルを作成し、定期的勉強会を実施している。また、事務所内に身体拘束の定義を掲示しながら細心の注意を払っている		今後も継続していきたい
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には契約書・重要事項説明書・運営規程を十分に説明し同意を頂いている		今後も継続していきたい
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談窓口を設置し、ご家族との関係も苦情や意見を言えるような雰囲気作りを心がけている		今後も継続していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>来訪時や必要に応じて電話にて報告している。行事でのエピソードや入居者様の日々の取り組み等細かい部分も知っていただけるよう配慮して報告している。また、月1回の広報誌を作成し情報を発信している</p>		<p>今後も継続していきたい</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置し、来訪時に意見を伺っている。家族が気軽に話すことが出来る様信頼関係構築にも努め、職員に周知し運営に反映させている</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者はスタッフミーティング等において意見・要望を聴取し運営者に報告している。運営者と職員は不定期であるが話し合う機会を作っている</p>		<p>定期的実施していきたい</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者様の状況や行事に応じ、柔軟に勤務調整を行っている</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフの離職は若干であるが減少している。異動は原則行わないが、各階の活性化や職員の勤務年数にバラつきがみられた場合には、入居者様へのダメージを配慮しながら実施している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は、意見・要望等を聴取しながらスタッフミーティング時に行われている。外部研修は、書面にて情報提供を行っているが研修を希望する職員が同じである。		複数事業所連携事業に参加しており、職員を育成する研修や講習を定期的実施出来る様検討中。内部研修は、スキルに応じた研修を計画的に実施していきたい
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市・区内のグループホーム管理者や在宅ケア連絡会等で情報交換している。また、他のグループホームの行事に職員と入居者様が参加し交流している。		複数事業所連携事業にて、他のグループホーム職員との交流会や入居者様のレクリエーション大会を検討中
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	働きやすい職場環境作りを目指して取り組んでいるが、十分ではない		精神的に余裕を持って勤務できるよう勤務形態や人員基準の改善を検討中
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	要望を聞きながら業務改善を行っているが十分ではない		介護職員処遇改善交付金を申請予定。給与面やキャリアに応じての実績等、更なる改善を期待したい
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前にご本人とお会いして要望を伺っている		今後も継続していきたい
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前にご家族にホームへ来て頂き、十分に時間をかけてご家族の困っている事をお聞きした上で、ホームに入所された場合での対応策を説明させて頂きながら入所を検討して頂いている。また、1度の見学で不安に思われた場合でも、何度でも見学に来て頂いて対応している。		今後も継続していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時にはグループホームでのケアが必要か十分に検討し、必要に応じて他のサービス事業者を提供している		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にホームを見学して頂き、レクリエーションや行事に参加して頂いている。また、相談者宅への訪問も実施し、自宅とホームでの生活にギャップが生じないように配慮している。		今後も継続していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員と入居者様が共同で作業することにより、職員が知らない面を入居者様がサポートする微笑ましい場面も多く見られ、人間関係の形成が確立されている		今後も継続していきたい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	電話連絡や来訪時に近況を報告し、日常生活を把握して頂く事で利用者様を支えてもらえるよう協力を得ている		今後も継続していきたい
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	行事や日々の生活でのエピソードを来訪時にお話し、ご家族にも知らなかった一面を知って頂けるよう配慮しながら、入居者様との関係を築いて頂けるよう支援している		今後も継続していきたい
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族に協力を得ながら支援しているが、十分とはいえない		更なる関係継続に向けて検討していきたい
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員間で入居者様同士の関係を把握しながら座席を検討している。また、他のユニットへ訪問し擬似的な近所付き合も行われている。		今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要に応じて対応している。また、ご家族様がボランティアで入居者様にイベントを開催して頂いている。		今後も継続していきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活で表情や訴えを把握しながら、ご本人が表出しやすい環境作りに努めている。また、業務日誌や連絡ノートにおいてスタッフ間で情報共有し、少しのサインも見逃さないようにしている。		今後も継続していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時は、入居者様宅へ訪問し馴染みの暮らし方について把握し、ご家族にセンター方式を記入して頂き生活歴を把握。また、ご本人にも聴取しながら対応している。		今後も継続していきたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者個々の生活スタイルやパターンの把握と、できること・出来ないことを把握し、残存機能の維持向上に努めているが、まだ不十分と感じている		今後も、心身状態、有する能力の現状を日々確認しつつ、職員間の情報の共有を行っていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	各担当者によりアセスメントを作成し、介護支援専門員と協議した内容とミーティングにおいて他の職員からの意見・ご家族に要望をお聞きしながら作成している。		職員が様々なアイデアが飛び交うように取り組んでいきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、状況が変化した場合は迅速に介護計画を変更出来る様努めているが、ご家族により意見・要望を聴取出来ない場合がある		来訪が困難な場合は電話等で聴取しながら作成していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>38 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>気になる事や気づいた事は個人記録に記入し、その都度ケアを工夫するとともに継続が必要な場合はケアプランに反映している</p>		<p>ケアプランに沿った記録の記入法を検討していきたい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>39 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>行事や日々の関わりの中でユニット間での交流が行われている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>40 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>運営推進会議等で地域のボランティアさんの情報を得ている。また、地域の方による大正琴の演奏会や月1回歌の会が行われている。</p>		<p>今後も継続していきたい</p>
<p>41 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>必要に応じて、市のオムツサービス利用や福祉用具・介護タクシーの業者と連絡調整支援している</p>		
<p>42 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議開催時には、必ず参加のお誘いし、半年に1度のペースではあるが参加して頂き、助言等を受けている</p>		
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>原則、ご家族やご本人の希望される医療機関をしているが、協力医療機関との連携により24時間対応の医療体制で支援している</p>		<p>今後も継続していきたい</p>
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>必要に応じて主治医と相談し、専門医への受診を試みている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	5月より医療連携体制を取り、看護職員を配置。主治医と連携を取りながら定期的に健康管理を行っている。		今後も継続していきたい
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入退院時にはご家族と管理者または介護支援専門員が同行し、医師や医療相談員と早期退院にむけて調整を行い、退院時には情報提供書を発行して頂き職員間の情報収集にも役立っている		今後も継続していきたい
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対応する指針を作成している。指針作成後、実際にホームでの看取りを希望される入居者様がおられ、主治医・看護師・ご家族間の連絡調整を行いながら指針に沿ったケアを行うことが出来た		今回の経験を踏まえ職員に対する研修や意義も伝えながら今後も継続していきたい
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	連絡調整を行うための帳票を作成し、情報を共有しながらご家族の希望とホームでの出来ること・出来ない事を話し合い状況の変化に対応した		今後も継続していきたい
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時には、当ホームの情報を正確に引き継ぎ、以前の生活が継続できるように努めている		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	申し送り時には、名前で言わないよう配慮し、言葉かけにもプライバシーに配慮している。また、面会簿を1名ずつ記入の帳票にしている		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご本人に合わせた説明・声掛けを心がけ、出来る限りご本人の意思を尊重出来る様努めている		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	今まで過ごされた習慣やペースを大切にし、職員の押し付けとならない様に支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	洋服は出来るだけご本人に選んで頂けるよう声掛けを行ない、訪問理美容や行きつけの美容室はご本人に加えご家族とも相談しながら支援している。髭剃りや口紅も押し付けとならない様声掛けを行いご自分で行って頂けるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むき、ゴマすりなど食事の準備や後片付けは入居者様と行っている。キッチンに立っての調理は難しいが、テーブルに直接まな板と包丁を持っていくと快く引き受けてくださる。男性入居者様は包丁研ぎや食器拭きを担っている。献立は入居者様の意見と季節感に考慮しながら作成している。また、施設内においてお寿司屋さんをイメージしたイベントを実施し、男性スタッフが入居者様に握りずしを提供し好評であった		今後も継続していきたい
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの嗜好を把握しながら提供している。現在、お酒・煙草は希望される方は居ないが対応は可能な状態である		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。また、出来る限りご自分で行えるよう状況に応じた声掛け・介助を行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回を目安に入浴しているが、希望があれば毎日入れるよう支援している。拒否が見られる場合も、スタッフを代えたり、様々なアプローチを試みている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	昼夜逆転とならない様、日中の活動性を上げながら、睡眠パターンを崩さないよう努めている。また、昼寝の習慣がある入居者様も長時間にならない様配慮している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や特技を活かしながら役割を担って頂き、職員と共に行う事で共感や喜びを感じていただけるよう配慮している。また、音楽の好きな入居者様が多く、職員が大正琴やキーボードを練習し皆様に披露する機会を設けたり、パルーンアートや手品を特技とする職員もあり、入居者様に喜ばれている		今後も継続していきたい
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、金銭管理はホーム側で行っているが今後入居者様に合わせて少額の自己管理からアプローチしていきたい		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺の散歩や外食を支援したり、積極的に外出出来る様心がけている		今後も継続していきたい
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	レストランへの外食やイルミネーション見学、資料館見学などを実施し、ご家族に協力を得ながら支援しているが、十分とはいえない		今後もご家族にアプローチしていきたい
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人からの希望があれば電話の支援を行っている		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	週末には入居者様のご家族・姉妹等馴染みの方が訪問してくださっている。職員が日々の状況をお話することで、入居者様との共通の話題で会話を楽しんで頂ける様支援している		
(4)安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての資料を事務所に貼付し、いつでも確認出来るようにしている。また、内部研修においても身体拘束・虐待についての勉強会を実施している		高齢者虐待防止教育システムを利用した内部研修を予定。グループワークなど職員間の意見交換が出来る様な研修会を実施したい
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかかっているが、ご本人が行きたい場所へ行ける様職員が同行支援している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	玄関入り口にはドアセンサーを設置、建物も回廊式で入居者様の状況が把握出来る様な環境である。また、常に声掛けを行い部屋に閉じこもる事の無い様な支援を心がけている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や薬品類は手の届くところには置いていない。ご本人より刃物の貸借を希望された場合は確実に返却していただけるよう努めている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	入居者の個々の状況を把握、カンファレンスにて未然に防ぐための工夫を検討している。また、他のユニットとヒヤリハット報告を共有するため「ヒヤリハット情報共有シート」を作成し、事業所内において同じミスが起こらないよう情報共有している		今後も継続していきたい
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成。内部研修において周知徹底しているが不安は大きい		定期的に市民向けの救命講習に参加したり、不安を緩和出来る様努めたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を実施している。ホーム用の訓練用消火器もあり職員全員が使用方法を身に付けられるようにしている。運営推進会議においてホームへの協力体制も働きかけている		今年度中にスプリンクラーの設置を予定している。また、夜間を想定した避難訓練を実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者様が現在おかれている状況に対するリスクと、今後考えられるリスクをご家族にも理解して頂けるよう十分話し合いを行っている		今後も継続していきたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を実施。帳票作成し一覧で確認出来るようになっており、申し送り等で情報を共有をしながら看護職員や主治医に報告している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	健康管理・服薬支援マニュアルを作成。処方内容は薬剤情報提供書のファイルにて確認しながら副作用や処方量についての把握を行っている		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体を動かす機会を増やし、水分量・食事内容を見直しながら極力下剤に頼らないよう努めている		今後も継続していきたい
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食の口腔ケアを実施。嚥下体操も行っている。必要に応じて歯科受診や訪問歯科を勧め、訪問歯科についてはメンテナンスも実施している		今後も継続していきたい
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者様に応じた食事量や水分量を検討し、ご本人の負担とならない様好みの物を提供しながら必要量を確保している		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し実施している。手洗い・うがいを徹底し、厚生労働省の通知も考慮しながら対応している。 入居者様・職員ともインフルエンザの予防接種も実施している		今後も継続していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	水周りの物は毎日消毒し、食材は使い切る分を週2～3回定期的に配達してもらって鮮度を保っている。食事作り置きをしないよう心がけている		今後も継続していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前にプランターを置き、明るい雰囲気心がけている。また、駐車場内にベンチを設置し気軽に入居者様や近隣の方が座れるような場所を確保している		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	中庭や和室に鉢花を置きゆったりと過ごして頂けるよう配慮している		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	中庭や施設内の各場所にベンチを設置しており、くつろげるスペースがある		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご本人がこれまで使用してきたタンスや椅子などを持ってきて頂いたり、思い出の品を居室に置いている		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	全居室や館内に換気扇が備え付けられており、温度計・湿度計を設置し温度調節も実施しながら適宜窓を開けて空気入れ替えをしている。汚物は新聞紙に包んで処理し、匂いがこもらないように配慮し、居室内に脱臭機を設置している部屋もある		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>館内はバリアフリーになっており、てすりが設置されている。また、居室のドアも身長に関係なく、どこからでも掴むことが出来る様配慮されている</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>過剰介護にならない様職員間で十分話し合い、その日の入居者様の状況を考慮しながら混乱が最小限に出来る様心がけ、行えた時の充実感を共感し「またやってみよう」と思ってもらえるよう支援している</p>		<p>今後も継続していきたい</p>
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭と駐車場内にベンチを設置し、花を眺めたり屋外で歌って楽しめるようにしている</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ゆったりと楽しく過ごし笑顔の絶えない住まい造りを理念に掲げ、日々の生活に楽しみや生きがいを支援出来るよう努めている。レクリエーションには、運動機能を使ったレクその他、壁画作りや間違い探し、音読・計算・歌など多岐にわたり提供している。